

『二度の自画像』合評会 —— 韓国の境界と記憶を語る ——

吉良佳奈江

本合評会は 2021 年 10 月 5 日、総合文化研究所の主催により Zoom によるオンラインで開催された。

『二度の自画像』の翻訳にあたった報告者のほかに、長年にわたりベトナム近現代を研究してきた今井昭夫氏（本学名誉教授）と、ソウル大学大学院で近代朝鮮文学を研究してきた柳川陽介氏（現在東京外大他講師）に登壇いただいた。

チョン・ソンテ（1969～）は登壇 20 年を超え、数々の受賞歴のある実力派の作家である。これまで日本では短編が翻訳されたのみで、まとまった形で日本に紹介されるのは今回の短編集が初めてとなる。報告者はまず著者の来歴と過去作品について簡単に紹介した。次に韓国内に居住している外国人を登場人物とし、韓国の社会と移住外国人との関係を主題とした「多文化小説」と呼ばれる作品群に注目し、短編集に収録されている「えさ茶碗」「見送り」「『労働新聞』」を分析した。「多文化小説」は、支配者としての韓国人、被支配者としての移住者という構図で移住者たちを描くため、移住者は悲劇的な結末を迎える傾向が強い。しかし、チョン・ソンテは移住者を支配者／被支配者という単純な構図に落とし込まない。「見送り」では不法滞在の期間も含め長年韓国で働いていた労働者が無事に帰国する空港での数時間を描き、彼女の多すぎる荷物に韓国で過ごした記憶を描き出す。移住者はビザに記された労働者や結婚相手というだけでなく、消費者であり友人にもなりえるひとりの生活者であるということを読む者に思い出させてくれる作品であると考えた。

今井氏には「ベトナム研究者から見た『二度の自画像』」とのタイトルで、ともに南北分断と内戦を経験した韓国とベトナムという二つの国を比較しながら論評いただいた。ベトナム戦争と、朝鮮戦争、17 度線と 38 度線の比較を背景に「労働新聞」「墓参」「望郷の家」をサスペンス風のエピソードもある読み物として読みといていただいた。また、ベトナムは海外への労働者派遣数が日本、台湾、韓国の順に多い現状に触れ、映画『海辺の彼女たち』などを除いて、日本では移住労働者の可視化がなされていないのではないかという指摘があった。「在日文学」はあるが「多文化小説」があまりない、という指摘は報告者もおおいに同意するものである。また、「白菊を抱いて」「消された風景」の背景となった光州事件については、その後の民主化運動でグエン・ヴァン・ボンの『白い服 — サイゴンの女子学生の物語』が読まれていたというエピソードに触れ、80 年代の民主化運動の共鳴とアジア文学の連鎖についてたどる必要性を提案された。

柳川氏からは「『二度の自画像』と「韓国らしさ」」というタイトルで、日本人読者が「韓国らしさ」を感じる点として、韓国現代史を背景としている点、軍隊文化／職業軍人を扱っ



ている点、骨董品や犬食文化の登場する点の3点を挙げていただいた。特に作品が発表されたほぼ同年代に韓国に留学されていた視点から、『労働新聞』に登場する警備員の老人に注目し、紹介してもらった団地の警備員として働く高齢男性の様子は興味深かった。

Zoomを通じた参加者からの質問がなかったのは残念だったが、今井氏、柳川氏の二人からフェミニズムに関する質問があったのは、現在の日本での韓国文学受容がうかがえる一端であったと思う。今作の中でチョン・ソンテは積極的にフェミニズムについて語っているわけではないが、男性優位の社会の中で男性である著者が感じてきた居心地の悪さは「墓参」「おもてなし」などに現れていると考える。

なお、この短編集は東京外国語大学出版会の公募企画を通じて出版されることになった。「ひとつの社会から取りこぼされてしまった存在と、その価値を呼び起こすのが作家なのだ」と私は思います(『二度の自画像』p.2「作家の言葉」より)と語っている通り、この短編集に描かれるのは決して大きな物語ではないが、現在の韓国の姿をリアルに感じられる良作である。この意味ある短編集を世に出してくれた出版会と、語り合う場を準備してくれた総合文化研究所に感謝を記したい。

合評会『二度の自画像』

日時：2021年10月5日(火)18時

場所：オンライン

登壇者

吉良佳奈江(東京外国語大学大学院)

今井昭夫(東京外国語大学名誉教授)

柳川陽介(東京外国語大学ほか非常勤講師)

司会

野平宗弘(東京外国語大学准教授)

日程：2021年10月5日 (火) 18時から

形式：Zoomによるオンライン

登壇者：吉良佳奈江 (東京外国語大学大学院)

今井昭夫 (東京外国語大学名誉教授)

柳川陽介 (東京外国語大学ほか非常勤講師)

合評会 一度の自画像

参加費無料

以下の
QRコードより
当日お入りください



お問い合わせ：

tufs422ics@tufs.ac.jp

主催：総合文化研究所

共催：東京外国語大学出版会

チヨン・ソント
吉良佳奈江 訳

●物語の島 アジア

두번의
자화상

東京外国語大学出版会
Tokyo University of Foreign Studies Press

